

保健体育科 1年

球技ネット型「バレーボール」～チームの動きを修正しよう～

担当 羽田野 直樹

【活動の目標】

バレーボールで空いたスペースを埋める守備をすることができる。

【 問 い 】

- ・コート上の空いたスペースを埋めるために必要なのは、どんなことだろうか。(問いの工夫1)
- ・味方の動きに合わせて、次の動きを考えるポイントは何か。(問いの工夫2)

今回 ICT を活用した場面	従来 の 活動
B3 思考を深める学習 実際にプレーしている場面を撮影して振り返ることによって、チームメイト一人一人の動きをしっかりと観察することができ、細かいポイントにも気付くことができた。	他のチームの動きを見て、相手チームに伝えたり、自分たちで動きを振り返るなどの活動
C2 協議での意見整理 サーブカット動作の後の、ボールを保持していない人の動きをイメージさせるとともに、その動きが適切であるか振り返ると同時に、修正点について話し合うことができた。	元々準備したシチュエーションを活用したり、実際に自分たちの動きを言語化して伝え合ったりすることしかできなかったため、実際に自分たちの細かい動きをイメージしにくい点があった。

【資料】 動作の撮影(1枚目：動画切り抜き)



振り返り



【ICT 機器を活用する良さ】

- 実際にチームの動きや個人の動きを確認することで、意識できていた点や、できていなかったポイントを認識できる。
- 複数の生徒の動きを短時間に確認することができ、互いに修正のポイントについて話し合うことができる。
- 短時間に、グループ内で何度も「撮影→修正→撮影」のサイクルを行うことができる。

【改善すべき点と原因および改善案】

- ・チームメイトが撮影をすることによって、グループ全員が一度に活動に参加できない。
- ⇒撮影者、練習参加者の分担、ローテーションを提示することによって、全員が練習に参加する機会を平等に与えることが大切で、また、1回の撮影した内容を、グループのメンバー全員に還元できる仕組みを考えることによって、効率よく撮影と修正のローテーションを行うことが大切である。